

原則之彙

第四篇

東京
軍事學
指針社



051442-001-7

特65-272

原則之彙 第4, 5, 第6, 7-9, 第10, 11編

軍事学指針社

M44-45

BFB-0154



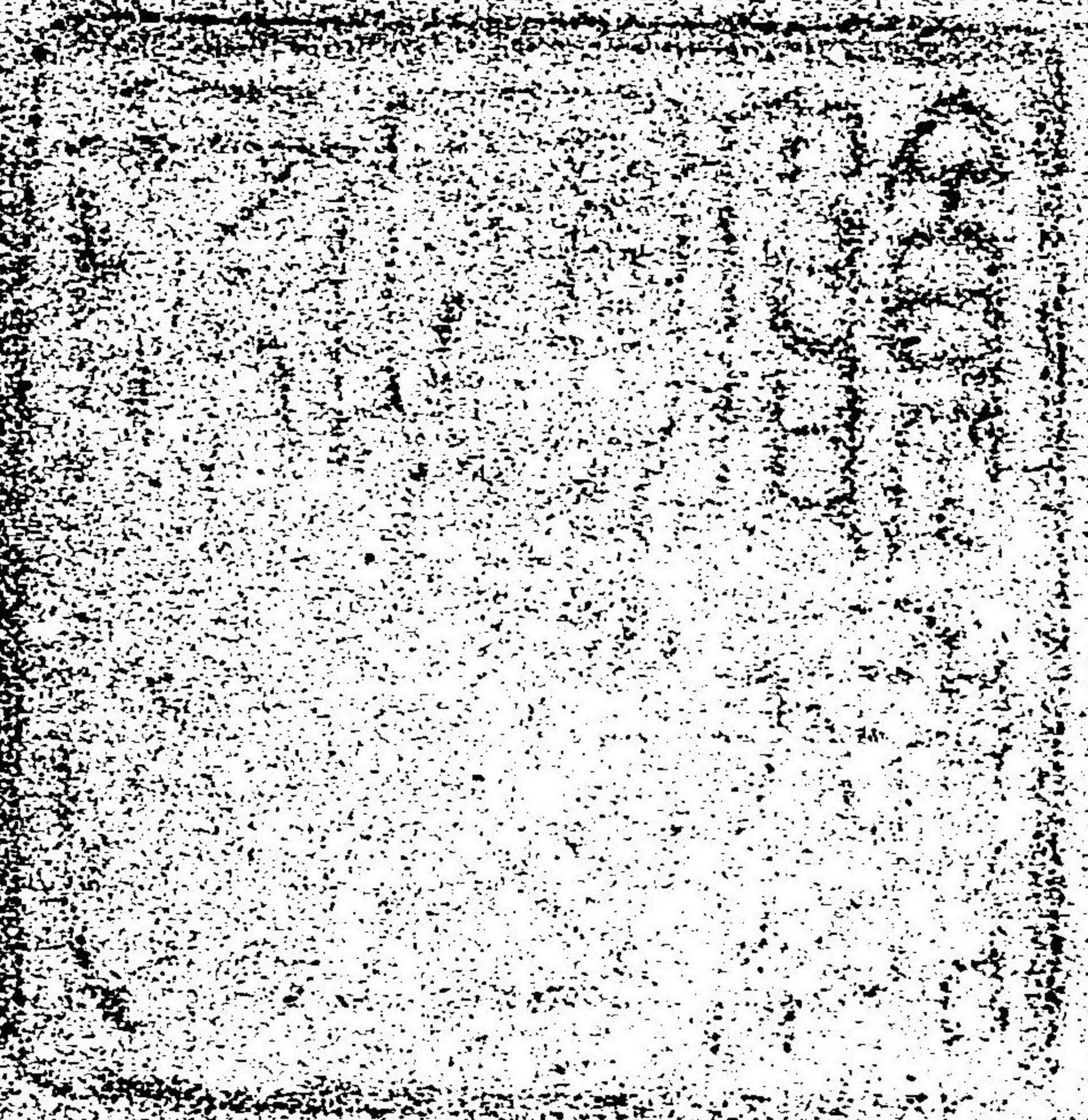


軍事學指針社編纂

葉

第四篇

東京 軍事學指針社



特 65
272

原則之葉 第四篇目次

一 戰闘正面及縱長區分

- 研究上ノ注意.....
- 戰闘正面ト縱長區分トノ關係.....
- 戰闘正面過廣ノ利害.....
- 縱長區分深重ノ利害.....
- 戰闘正面及縱長區分決定ノ要旨.....
- 戰闘ノ目的トノ關係.....
- (一) 決戦ヲ企圖スル攻撃ノトキ.....
- (二) 決戦防禦ノトキ.....



目次

七 六 五

(三)持久戦.....	九
○夜戦ニ於ケル戦闘正面及縦長区分.....	二
○敵情トノ關係.....	二
○持久トノ關係.....	一
○戦闘正面決定ニ關スル顧慮要件.....	三
○戦闘正面ノ密度.....	七
○散兵線ノ任務.....	九
○兵力ト縦長区分トノ關係.....	二
○戦闘正面ニ就テ.....	三
○中隊.....	三
○中隊全部ヲ同時ニ散開セシムルヲ要スル場合.....	三

○大隊.....	四
○全大隊ニ展開シ得ル場合.....	六
○聯隊.....	七
○旅團.....	九
○縦長区分ニ就テ.....	三
○援隊及各隊豫備隊ノ任務(性能).....	三
○中隊援隊ニ就テ.....	五
○大隊豫備隊ニ就テ.....	六
○聯隊豫備隊ニ就テ.....	五
○旅團ノ豫備隊ニ就テ.....	八
問答 四項.....	五

原則之彙

第四篇

戰鬪正面及縱長區分

○研究上ノ注意

戰鬪正面

○強○大○若○ク○ハ○擴○張○ト○ハ○兵○力○ヲ○意○味○ス
○延○伸○又○ハ○廣○大○若○ク○ハ○短○縮○ト○ハ○幅○員○ヲ○意○味○ス

縱長區分

○大○小○ト○ハ○兵○力○ヲ○意○味○ス
○深○淺○ト○ハ○距○離○ヲ○意○味○ス

第四篇 戰鬪正面及縱長區分

故ニ戰鬪正面ハ

強大ニシテ短縮ヲ要スルモノアリ——決戦ヲ企圖ス
 ル攻撃正面ノ如キ
 延伸シテ寡小ナルヲ要スルモノアリ——持久防禦ノ
 正面ノ如キ

又縱長區分

深長ニシテ大ナルモノ即チ深重ヲ要スルモノアリ——決
 戦ヲ企圖スル攻撃初期ノ如キ
 淺薄ニシテ小ナルモノ即チ淺小ナラサルヲ得サルモノ
 アリ——持久防禦戰鬪ノ如キ

讀者ハ先ツ之カ區別ヲ劃然タラシメ以テ由來至難トセラル、本題ノ研
 究ヲ釋然タラシメンコトヲ望ム

○戰鬪正面ト縱長區分トノ關係

戰鬪正面及縱長區分ハ相互ニ最モ密接ナル關係ヲ有スルモノニシテ、
 第一線ノ展開愈々廣キニ從ヒ縱深愈々淺ク、軍隊ノ配備愈々縱深ナ
 ルトキハ第一線ノ展開愈々狹シ、而シテ步兵操典第二部第八ノ第一
 項ニ依レハ、軍隊各級指揮官ハ部下軍隊ヲ展開スルニ當リ戰鬪正面
 ト縱長區分ヲ決定スルモノニシテ即チ幾何ノ廣サノ正面ニ展開シ、
 幾何ノ縱深ニ配備スルヲ要スルヤノ問題ヲ解決スルモノナリ。兩者
 ハ元來斯クノ如キ關係ニアリト雖抑々擴張シタル戰鬪正面ヲ作ラン
 トスルハ最後ノ目的ニシテ縱長ノ配備ハ此目的ヲ達成スル手段ニ過
 キサルコトヲ確知シ主客顛倒スルコトナキヲ要ス
 故ニ吾人ハ之カ決定ノ研究ニ資スル爲、各其利害ヲ詳知セサルヘカ

ラス

四

○戦闘正面過廣ノ利害

利、一、戦闘開始力強大ナリ

二、敵ヲ包圍スルコト容易ナリ

三、後方部隊ノ側方移動ヲ比較的容易ナラシム

害、一、戦闘久シキニ亘ルニ從ヒ同一ノ火力ヲ維持スルコト困難ナリ

二、正面ノ廣大ナルト共ニ指揮困難ナリ

三、火力薄弱ナルニ至ルトキハ中央ヲ突破セラル、ノ虞ヲ増ス

四、側翼薄弱ニシテ不意ノ事變ニ應スルコト能ハス

五、決勝點ニ注入スヘキ後方部隊ノ兵力ヲ減ス

○縦長區分深重ノ利害

利、一、後方部隊動作ノ自由ヲ得ルタメ指揮適當ナルヲ得

二、指揮官ノ意圖ニ從ヒ永ク戦闘ヲ指揮スルコトヲ得

三、敵ノ包圍ニ應シ、又ハ我包圍ヲ有利ニ指導スルコトヲ得

害、一、廣正面ニ展開セル敵ニ一時ニ乘セラル、ノ危険アリ

二、適切ナル後方部隊使用ノ時機ヲ看破スルコト困難ナリ

●戦闘正面及縦長區分決定ノ要旨

○戦闘ノ目的トノ關係

(一) 決戦ヲ企圖スル攻撃ノトキ

最初ヨリ必要ト認ムル比較的強大ナル兵力ヲ展開ス(延伸ニ非ス)

(理由)一、火力ノ優勢ヲ得ルタメ。

二、志氣ノ旺盛ヲ維持増進スルタメ。

三、無益ノ損害ヲ避ケンカタメ。

攻者ハ其死傷者防者ヨリ多キヲ以テ増加ニ當ツヘキ兵モ亦防者ヨリ多カラサルヘカラス

從ヒテ同兵力ニ於ケル戦闘正面ヲ比較スルハ攻撃ノ場合ハ防線ヨリモ狭小ナルコトヲ注意セサルヘカラス

即チ攻防兩者ノ區分上ノ差ハ攻者ハ防者ニシ後方ニ多クノ兵力ヲ貯ヘ狭小ナル正面ニ強大ナル兵力ヲ以テ戦ハサルヘカラサル點ニ存ス

(二) 決戦防禦ノトキ

防者ノ戦闘正面ハ攻者ニ比シ比較的之ヲ廣大ナラシムルコトヲ得

(理由)一、地形ヲ利用スルコト攻者ニ比シテ大ナルヲ得

二、工事ヲ施行シ陣地ノ強度ヲ増加スルヲ得

三、財界ノ清掃、距離ノ測定、彈藥ノ準備ヲ成スコトヲ

得

右三項ハ即チ比較的少數ノ兵力ヲ以テ優勢ナル火力ヲ發揚スルコトヲ得

四、後方、兵力ノ大部ハ地區地物ニ隱蔽セラル、ヲ以テ其ノ損害ヲ減殺スルコトヲ得

志氣旺盛ニシテ精銳ナル軍隊、殊ニ防禦工事ニ據ルモノハ一中隊殆ト二百米突ニ亘ル戰鬥正面ヲ以テ戰鬥ヲ遂行シ得ルハ、明治三十七八年戰役ニ於テ我軍ノ實證ニ徵スルコトヲ得ルモノトス。

即チ攻勢防禦ニ於テハ決戰ノタメ大ナル後方部隊ヲ存シ第一線ニ於テハ比較的延伸セル正面ニ少數ノモノヲ配布スルヲ通常トス（步兵操典第二部第六十八參照）

(三) 持久戰

持久戦ニ在テハ少數ノ兵力ヲ以テ多數ノ彈藥ヲ使用シ後方部隊ハ死傷ヲ減少センカ爲メ成ルヘク後方ニ位置セシム

戦闘正面ニ關シテハ何レノ場合ニ在リテモ第一線ノ各部隊ハ通常兵力ニ比シテ廣キ正面ニ展開スルモノタルハ歩兵操典第二部第九十二ノ明示スル所ニシテ縦長區分ニ就テハ又指揮官爾後ノ決心ニ基キ更ニ軍隊ヲ區分セントスル場合ニ於テハ多クノ兵力ヲ後方ニ控置スルヲ要スルヲ教フ

持久攻撃即チ陽攻ニ就テモ全ク豫備隊ヲ廢止スヘカラサルノミナラス其ノ戦闘ノ性質上却テ諸般ノ情況ニ對シ豫備隊ノ必要大ナルモノトス凡ソ退却ハ收容ニヨリテ行ハルヘク縦長ノ梯隊ヲ有スルトキノミ其部署ヲ行フヲ得、故ニ退却ヲ企圖スル部隊ハ縦隊配備ヲ要求シ

從ヒテ戦闘正面狹小ナルモノトス

◎夜戦ニ於ケル戦闘正面並縦長區分ニ關シテハ原則之棊第三篇ヲ參照アリタシ

◎敵情トノ關係

前進シ來ル敵ニ對シ即チ遭遇戦ニ於テハ所謂先制ノ利ヲ獲得センカタメ最初ヨリ第一線ノ兵力ヲ強大ニスルヲ要ス
決戦ヲ企圖シテ防禦スル敵ニ對シテ最後ノ優勢ヲ占メンカタメ後方部隊ノ控置ヲ強大ニス

持久ノ目的ヲ以テ防禦スル敵側ヘハ後衛、收容部隊等ニ對シテハ速ニ攻撃ノ成果ヲ獲得スヘキ必要ヨリ初メヨリ戰鬥正面ヲ強大ニシテ之ニ當ル

一一

◎地形トノ關係

步兵操典第二部第三十四第二項ハ之ヲ明示ス。其他一側若クハ兩側ニ障礙物アリテ之ニ依托スルコトヲ得ルトキハ此安全ナル方面ノ兵力ヲ節約シ得ルト共ニ其反對翼ニ後方部隊ヲ位置セシムルカ如シ

○戰鬥正面決定ニ關スル顧慮要件

一、各部隊ノ戰鬥正面ノ決定ハ必スシモ一定ノ標準ヲ與フル能ハス諸種ノ情況殊ニ戰鬥ノ目的ニヨリテ種々ニ變化ス

諸種ノ狀況

兵器ノ効力。精銳ニシテ射程延伸セル兵器ニ對シテハ、其不良ナルモノニ比シ効力大ナルヲ以テ從テ正面亦大ニシテ我亦火力ヲ發揚スルヲ要ス。敵ノ戰鬥力ノ價值。價值小ナルトキハ比較的正面ヲ延伸スルヲ得

二、地形有利ナルカ、掩護物アルカ、若クハ防禦工事ヲ築設シタル陣地ニアルモノハ寡小ナル兵力ヲ以テ比較的廣正面ヲ取ルコトヲ得

三、戰鬥正面ノ廣サハ軍隊數ノ増加ト共ニ比例シテ同一程度ニ増加スヘキモノニアラス、例ヘハ一中隊百五十米突ナリト雖大隊ニ於テ六百米突ナラサルモノ、如シ

四、大ナル軍隊ノ團結内ニアリテ戰鬥スル軍隊例ヘハ大隊、聯隊等ハ單獨ニテ戰鬥スル時ヨリ比較的大ナル正面ニ展開シ得ヘシ但シ大ナル團結内ニアルモノハ單獨ナル時ニ比シ他部隊又ハ地域ノ制限ヲ受クルコト多キコトアリ即チ隨意ニ正面ヲ延伸スル能ハサルコトアリヘシト雖、獨立シテ戰鬥ノ始終ヲ負擔スヘキニ比スレハ却テ廣正面ヲ取り得ルヲ一般ノ通則ト論スルヲ隱當ナリトス

五、單獨ニ行動スル兵團（師團等）ハ大ナル團結内ニ於テ戰鬥スルヨリ通常大ナル正面ヲ取ルコトヲ得
 是レ四ノ場合ト相反ス即チ四ニ於ケル中央部隊ハ單ニ正面内ニ於ケル範圍ニ於テ戰鬥スルヲ以テ單獨ニ於ケル場合ヨリ廣

正面ヲ占ムルコトヲ得ヘキモノニシテ五。如キ單獨ニ行動スル師團等ニ於テハ他隊ノ制限ヲ受クルコトナク且獨立シテ作戰シ得ヘキ能力ヲ有スルヲ以テ他隊ト並立セル時ニ比スレハ却テ廣正面ヲ取り得ヘ對ク、即チ第四項ト反對スルモノナリ右ハ即チ顧慮要件ニシテ以上ノミノ關係ニヨリテ戰鬪正面ヲ幾何ニスヘキカヲ解結スルコトハ不可能ニシテ、要スルニ各國共從來ノ經驗ニヨリ其結果ヲ鑑ミテ單ニ決戰ヲ企圖スル方面ニ於テ火力ヲ維持シ得ヘキ正面ノ標準ヲ與フルニ過キサルコトヲ知ラサルヘカラス

○戰鬪正面ノ密度

戰鬪正面ノ銃數ハ各面同一ニ配別セラルヘキモノニアラス。即チ孤立攻撃ニ從事スルトキ若クハ決戰ノ目的ヲ以テ防禦スル場合ニアリテモ全正面ニ一連ニ同一ノ稠度ヲ與フヘキモノニアラス、即チ決戰ノタメ重心ノ存スル部分ト其他ノ部分トニ於テ銃數ニ自ラ輕重アラサルヘカラス、之カ爲決戰ヲ希望スル方面ニ於テハ縱深ノ配備ヲ大トナシ、其他ノ部分ニ於テハ地形ノ利用、工事ノ築設或ハ障礙物等ノ方法ヲ以テ兵力ノ不足ヲ補ヒ該方面ノ銃數ヲ節約シテ一銃タリトモ多ク決戰方面ニ集ムルノ最モ緊要事ナリトス、決戰方面ノタメニ使用スル兵力ハ如何ニ之ヲ強大ナラシムルモ過多ナリト謂フコトナシ。

即チ決戰的戰鬪最後ノ時機ニ於テハ散兵線ノ密度ハ最高ト爲リ終始其密度ヲ保持セサルヘカラス、然レトモ戰鬪ノ初期ニ於テハ左ノ理由ニヨリ稀薄散兵ヲ用フルヲ原則トス

(理由)

- 一、敵ニ損害ヲ與フヨリモ自己ノ秩序ヲ保存シ決戰ニ備フル準備ヲ必要トス
- 二、彼我ノ距離未タ遠隔シテ命中不確實ナリ
- 三、強テ火力ヲ發揚シ多大ノ損害ヲ敵ニ與ヘントスルトキハ多數ノ彈藥ヲ空費シ其ノ結果決戰期ニ於テ充分ナル射擊効力ヲ求ムル能ハサルニ至ル

○散兵線ノ任務

- 一、後方部隊ヲ掩護ス
- 二、後方部隊ノ動作ヲ補助ス

(戰鬪ノ初期ニ於ケルモノ)

三、火力ノ優勢ヲ占メ敵火ヲ制壓ス

四、戦闘ノ重心ヲ負擔シ遂ニ火戰ヲ以テ勝敗ヲ左右ス
（戦闘ノ進捗ニ付ヒテ負擔スルモノ）

即チ此戦闘ノ進捗ニ伴ヒ散兵線ニ負擔スヘキ任務ニヨリ生スル濃密散兵ノ本旨ハ損害ヲ減少スルノ理由ニアラスシテ優越ナル火力ヲ發揚セン爲ナルコトヲ知ルヘシ

○兵力ト縦長區分トノ關係

軍隊ノ單位數ト兵力トノ増加スルニ從ヒ縱深ハ更ニ益々増大スルニ至ル例ヘハ步兵一中隊ニ就テハ先ツ一小隊ヲ援隊トシテ控置セハ足レリトスルモ兵數尙大ナル團隊ニ於テハ豫備隊ノ任務ハ援隊ニ比スレハ多端トナルヲ以テ其ノ兵力強大ナラサレハ其任務ヲ達成スルコト能ハス加之團隊大ナルニ從ヒ戦闘經過ノ時間亦從テ長キニ亘ルヲ以テ益然ルヲ知ルヘシ（戦闘正面決定ニ關スル顧慮要件第三項參照ノコト）

◎戰鬪正面ニ就テ

○中隊

步兵操典第一部第七十九第四項ニハ決戰ヲ企圖スル攻撃正面ニ於テハ戰時人員一中隊ノタメニハ概ネ百五十米ヲ標準トスヘシ、トアリ此規程ハ全ク最近戰役ノ經驗ヨリ來リタルモノニシテ火器効力ノ増進殊ニ彈道低伸ハ斯クノ如キ擴張ヲ齎シ得タルモノナリ

○中隊全部ヲ同時ニ散開セシムルヲ要スル場合

- 一、不意ニ近距離ニ於テ敵ニ遭遇シ當初ヨリ優勢ノ火力ヲ以テ之ニ當ラントスルトキ
- 二、砲兵ニ對スルトキ、即チ僅少時間ニ之ヲ撲滅セント欲スルトキ

- 三、收容部隊若クハ後衛ニ任セラレ之ヲ要スルトキ
- 四、兩側ニ顧慮ナク、且援隊用途ノ爲ニハ別ニ後方部隊アリ然モ最
前線火力ノ發揚ヲ緊要トスルトキ
- 五、援隊ヲ設クルモ徒ニ敵火ニ暴露シ損害却テ多大ナルト豫想セラ
ル、トキ

○大隊

大隊ハ戰鬪正面内ニ於ケル完全ナル戰術上ノ一單位ニシテ四個ノ中隊ヲ統一指揮シ戰場ニ於ケル一部ノ任務ヲ遂行シ得ルモノニシテ元來中隊ノ混淆ヲ避クルヲ以テ原則トナス、而シテ其展開ニ際シ自己戰鬪正面ノ區分確定ニ就テハ步兵操典第一部第七十九ノ明示スル所ナリ、即チ狀況ニヨリテ決定スヘキモノニシテ要スルニ此區分確定ニ關シ一般ニ適用スヘキ原則ナキモノトス

其ノ一般ノ展開ノ形式ニ就テハ他書適當ニ圖示セルモノアルヲ以テ之ヲ省クト雖、其ノ圖示セル所ノモノハ即チ理想的ノモノニシテ、元來展開ハ目的、地形等ニヨリ極リナキ變化ヲナスモノナルカ故ニ一定ノ圖示之ヲ盡スモノニ非サルコトヲ知ラサルヘカラス

○全大隊ヲ展開シ得ル場合

- 一、初ヨリ結果ヲ豫想シ得ルトキ
 - 二、地形特ニ適當ナルトキ
 - 三、前衛若クハ收容隊ノ任務上之ヲ要求スルトキ
- (此等ノ場合ハ中隊各自ニ援隊ヲ保有シアルコト切要ナルコト勿論ナリ)

○聯隊

所要大隊ヲ戦闘正面ニ就カシメ殘餘ハ後方ニ控置スルヲ以テ要旨トス。

歩兵操典第一部第二百及第二百一ハ之カ爲準據スヘキ原則ヲ示スモ

フニシテ一旦戦闘シタル大隊ヲ更ニ他ニ移スハ殆ト爲シ得ヘカラサルコトナルヲ以テ特ニ此注意即チ最初第一線ニ使用スル兵力ヲ勉メテ節約シテ之ヲ後方ニ掌握シ敵ヲ包圍シ或ハ我側面ヲ攻撃スル敵ニ對シ此豫備隊ヲ備フル等凡テ動作ノ自由ヲ欠カサルヲ要ス、是レ聯隊ハ他部隊ヲ以テ増加セラレサルヲ本旨トスレハナリ

○旅團

操典ノ主旨ハ旅團ハ兩聯隊ヲ並立シ聯隊毎ニ戰鬥ヲ進捗セシムルヲ旅團戰鬥ノ本則トセルト、聯隊ハ獨立シテ一方面ノ戰鬥任務ヲ遂行シ得ルト照合スルトキハ旅團長ハ兩聯隊ニ任務ヲ授ケ其ノ豫備隊ノ必要ヲ認めサルモノ、如シ抑戰略單位内ニアリテ歩兵ノ重要ナル最大單位タル旅團カ聯隊ヲ並立セシメントススルトキ各聯隊ニ其負擔スヘキ任務ヲ極メテ適切ニ又平等ニ二分シテ授與スルトスルモ此ノ任務遂行ニハ自ラ差異ヲ生スヘク、時トシテハ其ノ難易殆ト一ト二トノ比ヲ示スヤ計リ難カルヘシ、斯クノ如キハ始メ任務ノ授與法不適當ナリト稱スルヲ得ヘシト雖、戰況ハ常ニ豫想スル如ク進捗スルモノニ非スシテ任務ヲ平等

ニ分擔セシムル如キハ言フヘクシテ實行シ得ラルヘキモノニアラス
 況ンヤ旅團長ハ決勝ノ任務ヲ有シ且旅團方面ニ不意ノ事變發生スル
 トキハ忽チ豫備隊ノ必要ヲ生スヘク、聯隊ハ素ヨリ其ノ戰鬥地域ヲ
 主宰シテ任務ヲ遂行スヘキモ實際ニアリテハ甲聯隊ハ其兵力ニ餘分
 ヲ生シ乙聯隊ニ其不足ヲ告クル事アルヘキモ一旦聯隊ニ任セラレタ
 ル聯隊豫備ヲ旅團長更ニ之ヲ使用スル如キハ之ヲ避ケサルヘカラス
 故ニ決勝ヲ期シ且不意ノ事變ニ應スルタメニハ旅團長ハ豫備隊ヲ要
 スルモノニシテ、其ノ許多ノ場合ニ於テ豫備隊ヲ要スルヲ思ハシム
 但旅團長カ旅團豫備ヲ取ルトキ自然聯隊ノ建制ヲ割カサルヘカラス
 シテ、其ノ建制ヲ分割セラレタル聯隊カ一方面ノ戰鬥ヲ獨立遂行シ
 得ルヤニ於テ不利ナルコト明瞭ナリトス、即チ聯隊ハ不具トナリ聯

隊長ハ全聯隊ヲ以テ獨立シテスル任務遂行ハ不可能ナルニ至リ、旅
 團長カ豫備隊ヲ要スルカタメ聯隊ノ能力ヲ殺キ聯隊ヲシテ完全ニ活
 動セシメサルノ不利ハ却テ旅團豫備ヲ設ケサルヨリ大ナルニ至ルコ
 トアリ。即チ旅團豫備ニ就キ茲ニ二個ノ矛盾セル二條件ヲ發生ス
 故ニ操典カ旅團豫備ニ關シテ何等一定ノ方式ヲ掲ケサルハ頗ル肯綮
 ニ合シタルモノニシテ之ヲ定ムルヲ以テ却テ不利トナスヲ以テナリ
 以上ノ理由ニ伴ヒ戰鬥正面並縱長區分ニ關シテモ亦旅團ノタメノ準
 矩ヲ定ムヘカラス、其ノ展開後方部隊等ニ關スルモノニ就テハ步兵
 操典第二部ニヨリ其原則ニ基キテ情況ニ合セシメサルヘカラサルナ
 リ

◎縦長區分ニ就テ

○援隊及各隊豫備隊ノ任務（豫備隊ノ性能）

凡ソ戰鬪ノ爲ニ區分セラレタル豫備隊ハ各其附屬指揮官ノタメ大ナル意味ニ於ケル相似形ノ任務ヲ有スルモノニシテ即チ步兵操典第二部第八第二項ハ之カ原則ヲ示スモノナリ
即チ

所望ノ地點ニ決戰ヲ求ムルコト

必要ナル地點ニ援助ヲ與フ

戰線ノ前進ヲ促スコト

戰線ノ動搖ヲ防クコト

不時ノ事變ニ備フ

以上ハ即チ亦「縦長配備ノ目的」タルモノニシテ即チ爾後戰鬪ノ目

的ヲ達スル唯一ノ方法ナリ、換言スレハ「縦長配備ノ目的」ハ將來濃密ナル散兵線ト擴張充實セラレタル正面トヲ以テ敵ニ優ル火力ヲ發揚センタメ最初ニ採用スヘキ方法ナリトス

其他

攻撃奏功後ニ於ケル軍隊整頓ノタメノ警戒

追擊

退却ノ收容

方向變換

戰線ノ重心移動

等、皆此豫備隊ノ使用ニ係ラスンハアラサルモノニシテ、此任務ヲ充足セシムヘキ統率法ニ據リテ戰鬪ノ進捗ニ重大ナル影響ヲ與フルヲ得

ヘク、又此任務ノ完全ナル遂行ヲ以テ豫備隊ノ性能ヲ充實シ得タリトナス、乃チ、豫備隊ノ性能トハ之等任務實行ノ素質ヲ具有スルノ謂ニ他ナラサルナリ。

○歩兵中隊援隊ニ就テ

豫備隊ノ任務前述ノ如シト雖、其ノ區分セラレタル部隊ノ大小ニヨリ其任務ニ輕重廣狹アルモノニシテ、又其部隊ノ獨立戰鬪スルト他隊内ニアリテ戰鬪スルトニヨリ其間任務ノ範圍ニ差異アルコト明ナリ、而シテ援隊ノ任務ニ關シ步兵操典ハ援隊ノ用途トシテ第一部第百五十六ニ

散兵線ノ増加

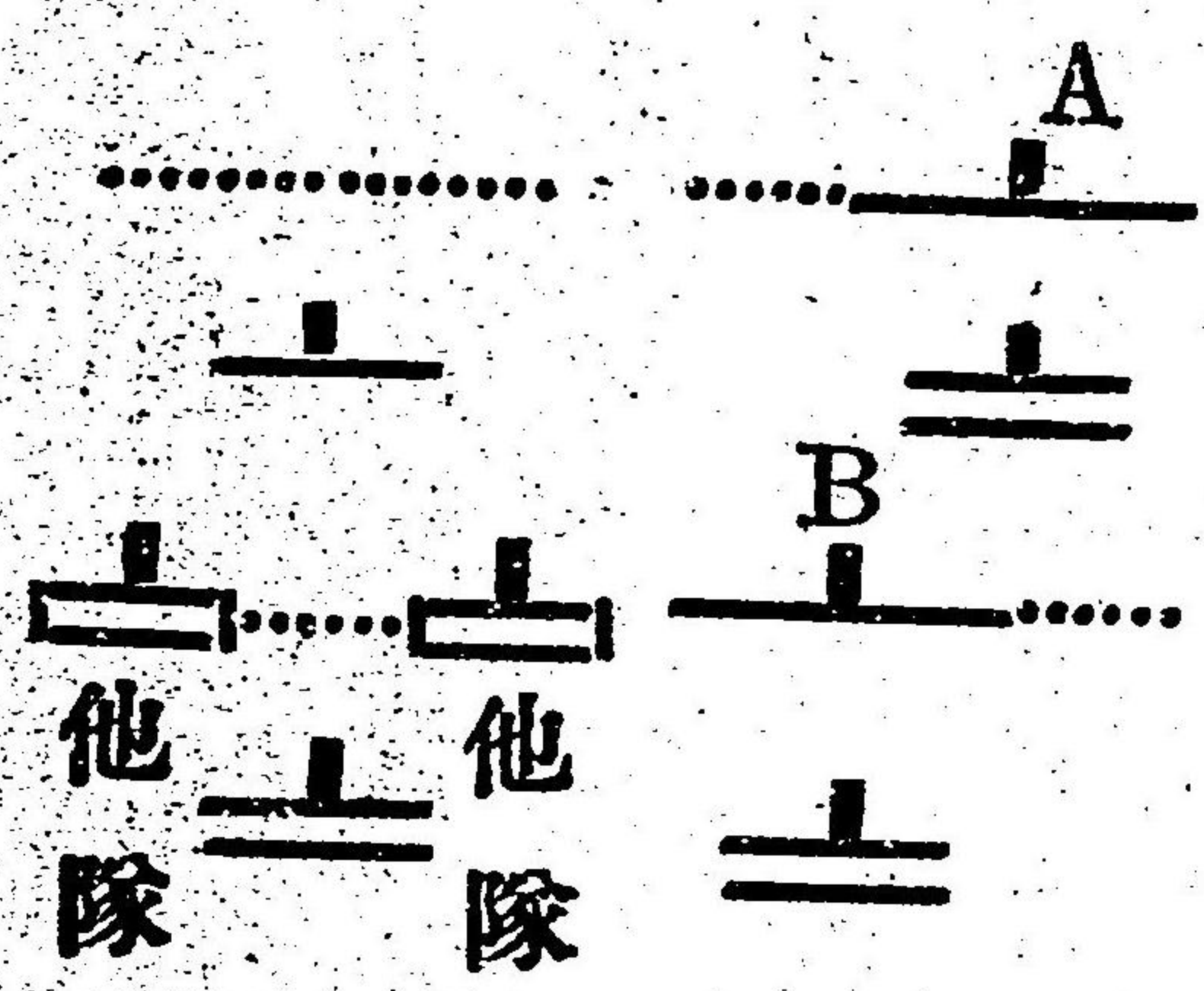
散襲ノ虞アル側面ノ掩護

第四篇 戰鬪正面及縦長區分

ノ二箇ヲ掲ケタリ

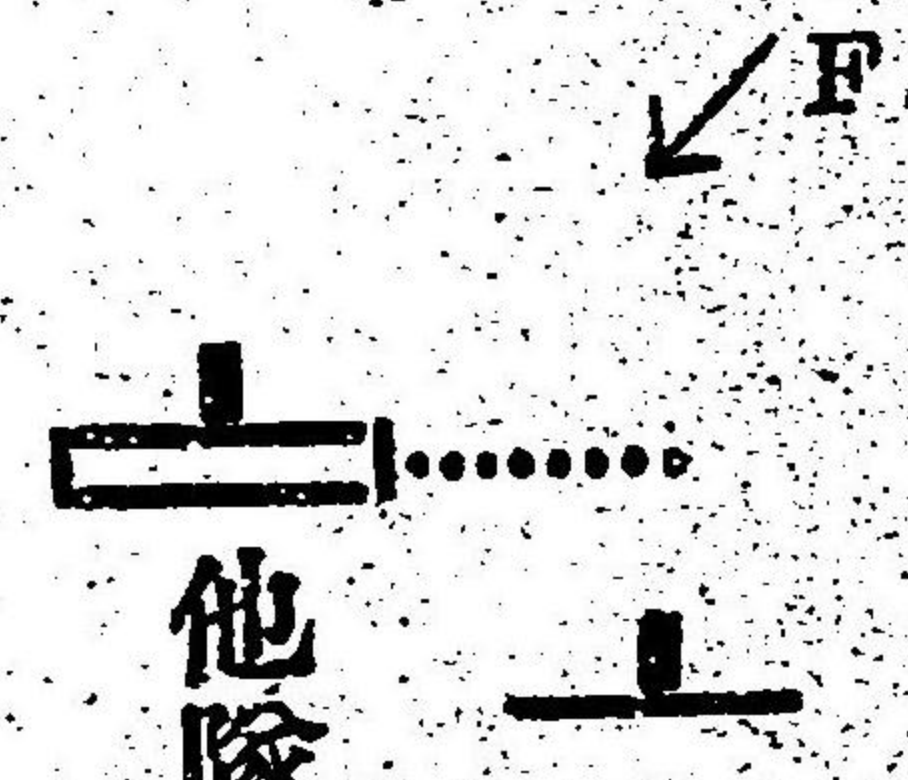
附記 援隊ハ本來ノ任務ヲ有スルモノニ非スシテ中隊長ノ使用ニ關スル要目ヲ掲ケタル爲、操典ハ用途ノ語ヲ用ヒタルモノナリト雖主要ナル用途ハ即チ援隊自身ニ取リテ其負擔スヘキ任務タルコトヲ思ハサルヘカラス

此趣旨ニヨリ援隊ノ位置ヲ考フルニ



將來A若クハBノ如ク戦闘正面ヲ擴張セントスル希望アルトキ
(一翼ヲ他ニ依托シ若シクハ孤立戦闘ノ場ニ多シ)

延伸増加ノ餘地ナキトキ若クハ餘地アルモ延伸増加ヲ行ハサルトキ
(二個小隊ヲ散開シ他ノ一小隊ハ之カ補充トシテ立ツトキ等)



他隊若クハ障礙

敵襲ノ虞アル側面ノ掩護

此増加ハ中隊長ノ命令ニヨリ援隊長ノ號令ヲ以テ實施スヘキモノニシテ、探ルヘキ距離、隊形並運動、側面警戒法、増加法ハ操典ノ明文之ヲ示ス、即中隊長ハ之等ノ原則ヲ顧慮シ其適當ナル使用ニヨリテ援隊ノ性能ヲ充足セシムヘキ責務ヲ有ス

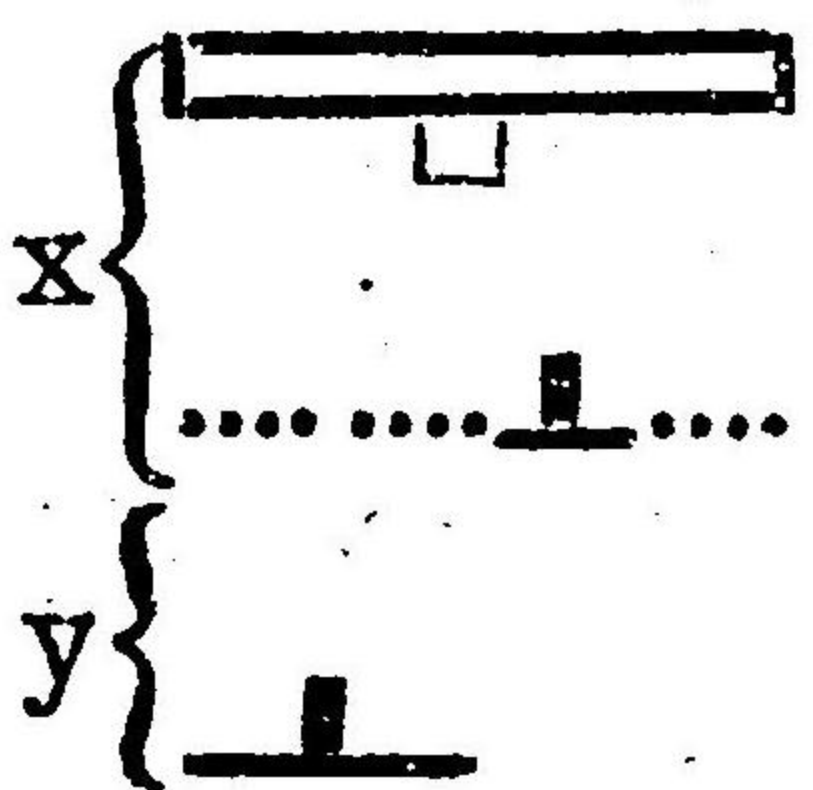
○距離 露 一四〇

佛 一〇〇乃至二五〇

伊 一五〇

獨 一五〇乃至二〇〇

米



$y < x$
ナルヲ要ス

此距離ハ步兵操典第一部第五十八ヲ玩味スルニ次ノ結論ヲ生ス
「損害ノ程度許シ得ル限り散兵線ニ近接セシム」ルコト是ナリ

○步兵大隊ノ豫備隊ニ就テ

大隊ハ戰術單位ニシテ戰場ニ於ケル一部ノ任務ヲ遂行シ得ル能力ヲ有シ、此能力ヲ維持發揮セシメ得ルモノ即チ主トシテ之カ豫備隊ノ運用

ニ歸セサルヘカラス步兵操典ニ於テ戰鬪初期ニハ少クモ一中隊ノ豫備ヲ控置スヘキヲ示サレタルハ此要旨ニ基ケルコトヲ知ルヘシ、大隊豫備隊性能ノ主眼即是ナリ

A 任務ノ特性

步兵操典第一部第八十三ニヨレハ豫備隊ハ大隊長ノ直接使用ニ供セラル、モノニシテ大隊長ハ豫備ノ適當ナル使用ニ依リテ戰鬪ノ變化ニ應シ以テ戰術單位タルノ要旨ニ適合スヘキコトヲ示ス。換言スレハ豫備隊ハ大隊長ニ掌握セラレテ大隊ノ要旨ヲ充實スヘキ任務ヲ有ス而シテ戰鬪ノ情況ニヨリ最初ニ掲ケタル諸種ノ任務ヲ負擔スルモノニシテ大隊ノ獨立セルト他隊ト連繫スルトニヨリ其範圍ニ大小アルコト亦既ニ述ヘタル如シ例ヘハ稀ニ方向變換及戰線ニ於ケル重心移動ノ如

キ中隊ニ於テハ容易ニ實施セラルヘキモ大隊ニ於テハ第二線中隊ノ使
用ヲ要スルカ如キ是ナリ

B 運用

歩兵操典第二部ニ於テ隊形、位置、距離及行進法等ニ關スル原則ヲ說示
スルモノ所謂豫備隊若クハ後方部隊云々ト稱スルモノハ各大隊ヨリ師
團ニ至ルマテ各部隊ニ就テ準據スヘキモノナルヲ知ラサルヘカラス、
即チ豫備隊ハ其任務上ニ於ケルノミナラス之カ運用上ニ就テモ各相
共通スル一貫セル原則ニ從フヘキコトヲ了解スヘシ、即チ之ニ關スル

歩兵操典第一部ノ條項ハ第二部ヨリ生スルモノナリトス然リト雖、中
隊ハ最前線ヲ大隊ハ前線ヲ聯隊ハ戰線ヲ各敵方ニ對シ形成スルコトヲ
以テ師團内ニ於ケル各隊用途ノ法則トシ且操典第一部ニ於ケル各部隊
教練要則ニ掲クル各其性能ノ差異ニヨリ其豫備隊ノ運用ニ自ラ其間軒
輕アルハ明ナルコトヲモ併セテ知得シアルヲ要ス
大隊ハ元來聯隊内ニ動作スルモノナルヲ以テ二線ニ區分スルヲ以テ原
則トナス。而シテ

獨立戰團スル場合ハ最初第三線ニ

他ノ軍隊ト共ニ戰團スルトキハ即チ第二線ニ

一翼ヲ依托スル場合ハ依托セサル翼ニ第二線或ハ第三線ニ

持久戰ニ於テハ最初ハ多クハ第三線ニ

生力ヲ
控置シ

決戰期ニ於テハ二線或ハ稀ニ一線トナリ

防禦ニアリテハ最初ヨリ多クノ中隊ヲ第一線トナシ第二線ハ一中隊

トナスコトアリ

夜間ニ於テハ二或ハ三線ヲナス

之カ増加法ハ步兵操典第一部第百八十三第二項ニ於テ明ナリ、面シテ

之カ細部ノ動作ニ至リテハ中隊各自ニ待タサルヘカラス

其ノ増加ノ時機ハ敵ノ方向確實ニ決定シタル時、即チ決戰攻撃ニ移
ルノ時機ヲ以テ通常トス。是レ決戰時期ハ彼我共ニ火力ノ優勢ヲ奪フ
ノ時機ニナルカタメ特別ニ他ノ顧慮ナキ以上ハ一意火力ノ優勢ヲ希望

スレハナリ

故ニ戰況ト地形ニヨリ敵前五六百時ニ七百米ノ距離ニ於テ散兵線ニ増
加セラ、モノニシテ、此以前ニ於ケル第二線ノ任務ハ第一線ノ側翼ヲ
警戒シ其ノ失敗ヲ救護シ又ハ恢復ニ任スルモノトナリトス。

豫備隊ノ位置ニ就テハ諸書ニ適當ニ説明セラレアルヲ以テ之ニ省ク
唯之ヲ中央後ニ置クハ敵火ノ集中スルト伍間増加ヲ避クルタメ策ヲ得
タルモノニアラサルコトヲ知ラサルヘカラス

即チ之ヲ中央後ニ置クヲ要スルハ左ノ時ニ限ルモノトス

一 情況判然セサルトキ

二 第一線ヲ直接増加スルトキ

三兩翼ハ共ニ安全ニ依托セラルトキ

又大隊ハ左ノ場合ニ於テ豫備隊ヲ多ク貯フルノ必要アルモノトス

一 攻撃方向未タ決定セサルトキ

二 地形並ニ任務上側面ニ對シテ顧慮アルトキ

三 戦闘ヲ永續スル必要アルトキ

四 地形上多クノ中隊ヲ第一線ニ使用シ得サルトキ

五 聯隊ノ戦闘展開ニ當リ第一線ニ多クノ大隊ヲ使用セラレタルト

キ

○步兵聯隊豫備隊ニ就テ

步兵操典第一部第二百三ニ依レハ豫備隊ニ關シテハ大隊ニ示セル要旨

ニ從フヘシ。トアリ亦以テ其ノ原則共同ノモノタルヲ知ルヘシ。唯、

聯隊ハ獨立シテ一方面ノ戦闘任務ヲ達スヘキ特性ヲ發揮スヘキ主旨ヨ

リ聯隊長ハ最後ノ時期ニ至ルマテ若干部隊ヲ手裏ニ貯ヘ終ニ軍旗ト共

ニ突撃スヘキコトヲ説示セリ、大隊カ戦況ノ必要上突撃ニ先チ豫備隊

ヲ使用シ盡シ大隊長ハ唯部下戦闘ノ實施、彈藥補充及突擊時期ニ注意スルノミナルコトアルニ比シテ豫備隊運用上ノ差異アルコトヲ知ルヘク從テ之カ任務性能ニ輕重アルコトヲ認メスンハアラサルヘシ

A 任務ノ特性

任務ノ特性ハ前述ニヨリテ明ナルヘシ。加之追撃退却ノ收容及戰線ノ重心移動ノ如キハ聯隊ニ至リテ適確ニ豫備隊ノ負擔スルモノニシテ中隊ノ援隊ハ勿論大隊ノ豫備隊ニ於テハ斯クノ如キ任務ハ其本領トシテ當然其有スヘキモノニアラサルナリ

B 運用

隊形、位置、距離及行進法ニ統テハ大隊ノ部ニ於テ説述セルカ如シ、但シ、聯隊ハ他ノ増加ヲ要セサルヲ本然トシ通常三線區分ヲ原則トシ此第三線部隊ハ總豫備隊ノ任務ヲ有スルト同時ニ普通後方部隊ノ任務ヲ負擔スルモノナルヲ知ルヲ要ス而シテ大隊豫備隊ハ第一線ノ中央後ニ控置スルコト稀ナラサルモ聯隊ニ於テハ其任務ノ性質上翼側後ニ在リテ動作スル場合多ク隨テ己ムヲ得ス中央後ニ位置セシメサル時ニ於テモ寧ロ其牽制ヲ破リ之ヲ兩翼後ニ配置スルヲ得策トスルコトアリトス

○旅團ノ豫備隊ニ就テ

旅團長カ直接ニ豫備隊ヲ要スルハ情況上旅團長自ラ旅團ノ戰況ヲ左右セント欲スル時ニシテ此時ニ於ケル豫備隊ノ性能ハ聯隊カ他隊ニ算スル願慮ヲ省キタルト同様ノ景況ヲ呈ス、其ノ任務運用ニ算シテハ即チ旅團能力ノ強大ニ伴フ所ノ諸種ノ狀況ニ應シテ變化スヘキ戰略並戰術上ノ統率ニ從ヒテ之ヲ成シ既ニ一定ノ範圍ヲ以テ之カ方式ヲ律シ能ハサルモノト知ラサルヘカラス。唯專ラ步兵操典第二部ニ掲クル戰團ノ原則ニ基キ旅團長ノ運用ノ力ニ待ツヘキモノナリ

而シテ步兵操典第十、第三十一及第三十二ニ依レハ開豁地ニ於テ損害

ヲ避クル程度ヨリ論スル時ハ各梯隊ノ距離ハ三百米突ニシテ此距離ハ各國共ニ大差ナキモノ、如シト雖、一方ヨリ論スル時ハ豫備隊使用ノ目的並全隊兵力ノ大小ハ豫備隊ノ位置ト距離ニ關係スルヲ以テ單ニ敵彈ノ願慮ノミニ依リテ論定スヘキモノニアラス、故ニ步兵操典說示ノ如ク必要時機ニ至レハ其距離ヲ短縮スヘク斯クノ如キ場合ニ於テハ既ニ損害ヲ願ムヘキ時ニ非ス又兵力ノ増加ニ從ヒ後方部隊ハ或ル一翼ニ場合ニハ遠ク翼側後ニ位置セシムルヲ必要トス若シ此ノ場合ニ於テ後方部隊ヲ中央後ニ置クトキ其距離ヲ更ニ増大シアラサルトキハ側方移動ノ爲敵前ニ於テ側面行進ヲナスノ不利ニ陥ルコトアリ。其他戰團ノ目的ニ依リ種々後方部隊ノ位置ヲ異ニスヘキハ勿論ナリトス、故ニ後方部隊ノ使用法ハ戰團間ニ於ケル最モ緊要ナル條件ナリ、後方部隊側

方ニ顧慮スルト共ニ第一線トノ距離ニモ顧慮シ以テ側方移動ノ注意ト遠隔シテ位置スル爲第一線ト敵トノ距離ヨリ大ナルニ至リ敵ノ逆襲ニ轉スルノ危険アリ故ニ状態ニヨリ第一線ノ爲ニ豫備隊ヲ區分スルノ必要アル場合ヲ生スルコトアルモノトス

(一) 戦闘正面幅員ノ限度ハ之カ基礎アリテ定メラル、ナルモノナルカ?

答 戦闘正面ハ情况ニ應ジ目的ニ依リ變化スヘキモノナルヲ以テ、

判然之カ決定ヲ與ヘ得ヘキモノニアラス、然リト雖左記ノ條件

ハ實驗上ノ最大限ヲ齎スモノナリ

- 一、指揮統禦確實ノ範圍ヲ脱セサルコト
- 二、火力ノ發揚度ヲ損セサルコト
- 三、戦闘ヲ保持シ得ルコト

(二) 戦闘正面ハ情况ト目的トニ變化スルト稱スルモ其ノ多ク發生スヘキ情况ト目的ニヨリ豫メ一定ノ限度ヲ定メ置クコト不可能ナラスト思惟セラル、ナリ如何?

答 然ラス、是レ研究上概定スルコト不可能ナラストスルトスルモ實戰ニ於テハ戦闘ノ前後損害及患者ノ多少補充兵ノ着否等諸種ノ原因ニヨリ各部隊人員ノ多寡増減實ニ著シキモノアリ、此ノ

結果ハ即チ戦闘正面ノ廣狹ニ差異ヲ生スルハ自然ナレハナリ

(三)然ラハ學修上若クハ研究上ノ戦闘正面如何

答 決勝方面ニ於ケル概定數次ノ如シ

一中隊 約百五十米

一大隊 約四百五十米突

一聯隊 約八百米

一旅團 約千五百米

一師團 約二千五百乃至四千米突

(四)師團ノ戦闘正面ニ著シキ差異アル理由、如何

答 是レ師團ハ戰略單位ニシテ一方面ノ作戰ヲ終始負擔スルモノニシテ戰略的決戦ヲ遂行スルニ足ルヘキ兵力及編組トヲ具備スル

モノナリ

之カ爲師團ノ孤立スル場合ハ勿論大兵團ニ於テ全ク決勝範圍ニ屬スル師團ト雖、全戦闘線ヲ通シテ一定ノ標準ニ則ルヘキコトハ甚タ稀ナレハナリ、故ニ諸種ノ情況ヲ包含シテ考フルトキハ如上ノ當キ差異アル數字ヲ算出スルニ至ルモノナリ

原則之葉

第五篇

準 備 陣
突 擊 戰 術

是レ初級戰術上ノ不可解ナル宿案ナリ本書カ此問題
ニ對シテ如何ニ簡潔ニ原則的ナル斷案ヲ與ヘタルカ
ヲ見ヨ。

明治四十四年六月廿八日印刷

明治四十四年七月一日發行

正價金拾五錢

編纂兼
發行者

安西理三郎

東京市四谷區本村町九番地

印刷者

松澤 虹三

東京市麴町區下六番町十七番地

不許
複製

印刷所

同勞舍活版所

東京市麴町區下六番町十七番地

發行所

菊地屋

軍事學指針社

東京市四谷區本村町九番地

振替口座東京九〇三二番

原則 是てはわらぬが
問答

各册(定價金參拾錢
郵税金四錢)

改訂 第一集
再版 第二集
三版 第三集
三版 第四集
再版 第五集

▲步兵聯隊卜其活動 全一册 定價金參拾五錢 郵税金四錢

▲最新地形學詳說 全一册 定價金六拾五錢 郵税金六錢

▲基本射擊教育 全一册 定價金參拾錢 郵税金四錢

▲命中卜効力 全一册 定價金五拾錢 郵税金六錢

▲軍隊統御法 全一册 定價金貳拾錢 郵税金貳錢

▲新步兵操典引初級戰術研究錄 定價金五拾錢 郵税金六錢

▲野外引證初級戰術研究錄 定價金四拾五錢 郵税金六錢

▲兵器學常識問答 定價金四拾錢 郵税金貳錢

▲新舊(改正)章按步兵操典 定價金四拾錢 郵税金六錢

▲新兵野外教育計畫 定價金參拾錢 郵税金四錢

▲測板測圖必携 附手簿 全一册 定價金貳拾錢 郵税金貳錢

▲軍隊教育

計書實施

進度對照

前編正價四拾錢郵税金六錢
後編正價三拾錢郵税金四錢

▲三版兵棋必携

附錄(行軍長徑一覽)
兵機隊標一覽

定價金貳拾五錢
郵税金四錢

▲新兵器

學全一冊

定價金八拾錢
郵税金四錢

▲兵卒教育學科問題集

全一冊

定價金拾五錢
郵税金貳錢

▲夜間演習教育方案

全一冊

定價金三拾五錢
郵税金四錢

東京市四谷區本村町九番地

發行所

菊地屋

軍事學指針社

振替口座東京九〇三一番

軍事學指針社編纂

現地講話

定價金五十錢

郵税金四錢

該書は新歩兵操典其他の原則規定を基礎とし現地に於て諸兵連合の戦術を研究したるものにして本書の特色とする所は主として高級指揮官より順次各階級に於ける幹部の決心處置を連繫的に研究し且つ緊要なる研究事項は詳細に亘り講話的に講究しあるにあり殊に現地講話統裁法に關し特に着意記載しあるを以て獨り戦術研究者のみならず戦術統裁者の爲めにも有益なる参考書たるを信す

東京市四谷區本村町九番地

發行所

振替口座東京九〇三一番

軍事學指針社

緩生著

最新軍隊教育

紙數四百餘頁
附表三枚
定價金八十錢
郵稅金十錢

今日ノ時代ハ昨ノモノニ非ス人之ヲ知リ之ヲ口ニス然リ而テ其爲ス所
ノモノニ就テ之ヲ睹レハ其覺悟其眼識將タ其途ニ於テ依然トシテ舊ク
且ツ卑クシ而カモ形ニ走リ本ヲ失フモノ夥シ夫レ軍隊ノ事一ニ人情
意ノ上ニ立ツ須ラク先ツ之ヲ究メ之ヲ察シ以テ臨マスンハアルヘカラ
ス時弊ノ趨クトコロ之ヲ表ハスモノアルモ唯言辭ヲ列ネテ實際ノ施設
ヲ外ニシ或ハ時間ヲ計算シテ計畫ト稱スルノ類何レモ當ラス反テ之ヲ
害ス茲ニ本書ノ出ツルアリ正ニ之ヲ濟フテ其眞ヲ得セシムルモノタリ
記ス所教育ノ計畫、各種教育ノ要領、新兵教育ノ打合、檢閲軍人ノ信
仰ト精神教育、個性ノ研究、内務ノ根本ヲ明ラメ詳ニ其道ヲ講セ
リ西人言ヘルアリ教育者ハ教育ナリト又自家修養ノ資料タルモノ希フ
之ヲ得テ布ケ著者ノ爲人ハ別ニ云ハス就テ察セヨト

發行所

東京市四谷區本村町九番地

軍事學指針社

266
300

